

向陵だより

～「安全・安心で元気な学校」づくりのために～



今年度の重点教育目標

学校HP



『あなたも わたしも みんな たいせつ』

令和7年 9月30日（火）

まことに日に新たに、日々に新たに、また日に新たなり

校長 神山 仁

- 暑さ寒さも彼岸までと言われますが、秋分の日も過ぎ、朝夕は肌寒いくらいまで気温が下がり、皆様も季節の移り変わりを感じられているのではないのでしょうか。

学校では来週から、テーマ「羽ばたけ向陵っ子 みんなで協力する学習発表会」のもと、学習発表会の取組が始まります。各学年で、発表する子どもたちの姿をイメージしながら準備を進めているところです。運動会的时候もそうであったように、大きな行事があるからこそ教科等の学習を丁寧に、大切に取り組まなければなりません。1時間1時間、一つ一つの活動に集中して取り組む姿勢を意識し、育成を目指す資質・能力を身に付けていくとともに、学級や学年の仲間と一緒に、日々心を新たに、一日一日を大切にしながら頑張りたいと願っています。

- 学校は集団で生活する場であり、そこで多くのことを体験し、学び、身に付けていきます。友達の姿や言葉から、自分と異なる考え方や新しい見方を知ることができます。友達と意見がぶつかったり、けんかをしてしまったりすること等を通して、自分を見つめ直すこともできます。相手を思いやる心の成長も、期待することができます。

乳児は、肌を離すな。

幼児は、肌を離して手を離すな。

少年は、手を離して目を離すな。

青年は、目を離して心を離すな。

これは、山口市教育委員長をされる等、長く教育に携われた緒方甫氏の「子育て四訓（しくん）」という、心を育てる子育てについての言葉です。アメリカインディアンの教えにも、同じものがあります。

小学校低学年は、様々な場面で「手」を掛ける必要があります。少しずつ手を離し、子どもに任せることを多くしていくことが大切です。中学年頃からは、子どもを望ましい方へ導くためにも「目」を掛けていく必要があります。青年期になって子どもが親元を離れば、目を掛けることはできなくなるので「心」を掛けることが大切になっていくのです。



もちろん、子どもの育ちは様々ですので、この言葉の通りにはなりません。しかし、親として、子どもの成長に携わる大人として、大切にすべき視点だと思えます。今後も、子ども同士の関わり合いを大切にするとともに、私たち教職員もしっかりと「手」と「目」を、そして「声」を掛けながら向陵っ子一人一人と関わっていきます。